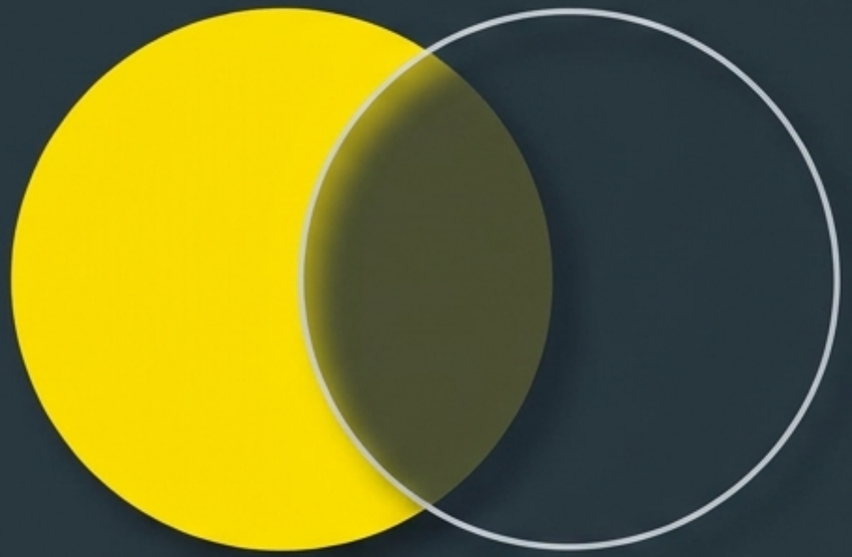
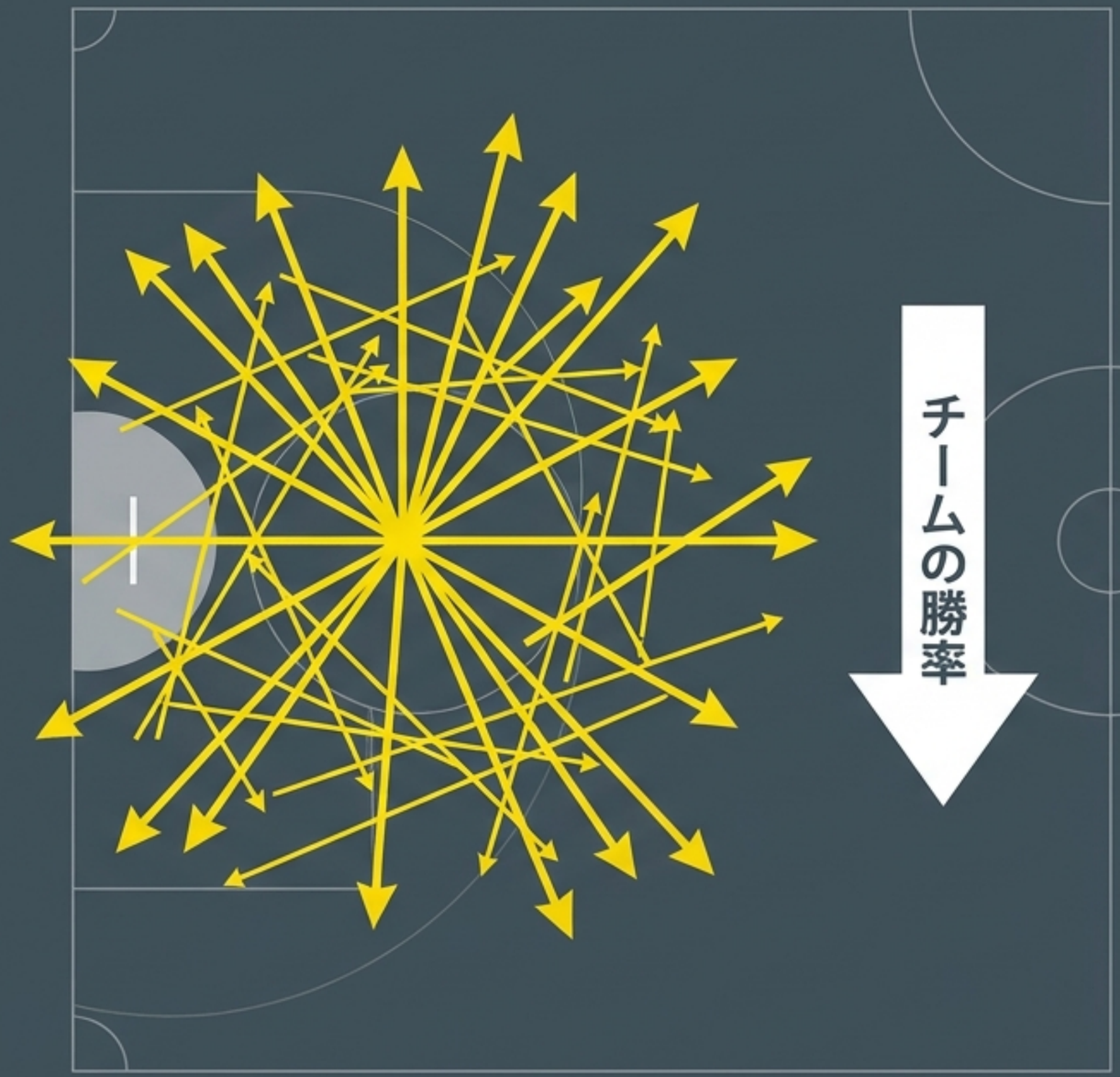
「自分が活躍したい人は、パートナーを活躍させられない」



ダブルスにおける「本当の強さ」と成長のパラダイムシフト

Gemini Notebook



一生懸命プレーすることが、勝利に直結するとは限らない。

パートナーが打てる球にも手を出す。

自分が決められそうなら、無理をしてでも触る。

本人は一生懸命プレーしているつもりだ。

自分が活躍することと、二人が勝つことは、必ずしも一致しない。

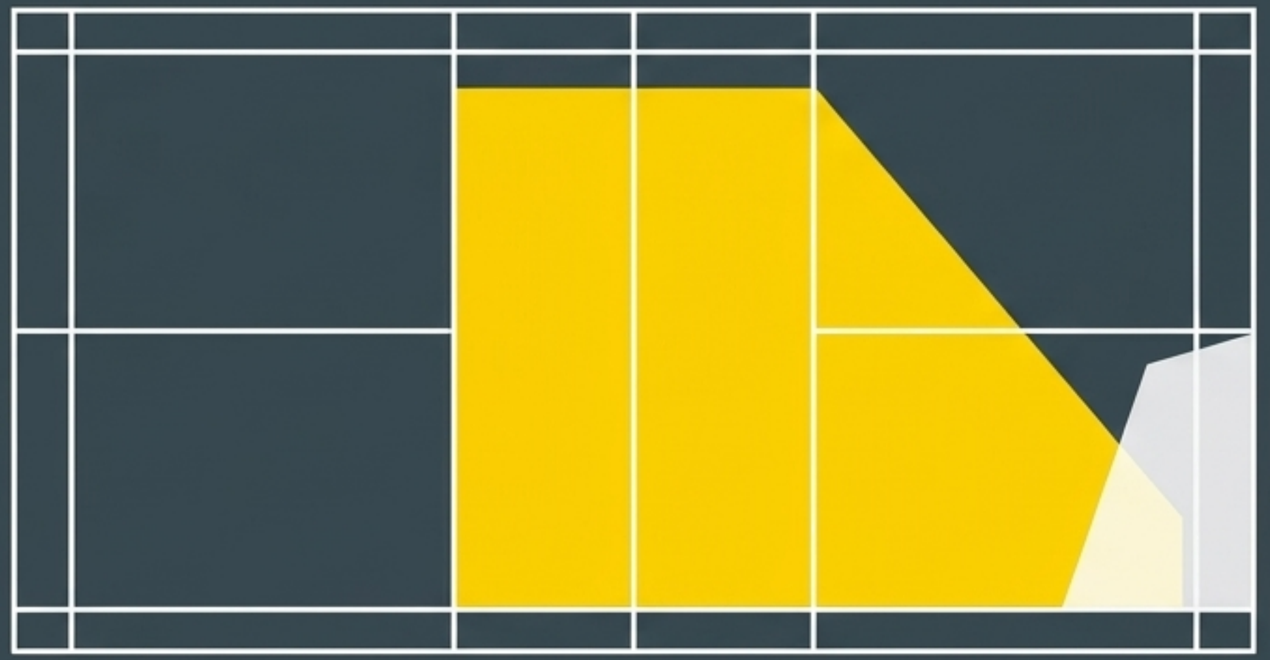
Gemini Notebook

「自分が決める」という意識が、パートナーのスペースを奪う。

ダブルスなのに、自分が決めることばかり
考えている人がいる。

自分が活躍することに価値を置いている人は、
パートナーが活躍して勝っても満足できない。

なぜなら、「自分が上手くなった気がしない」
からだ。



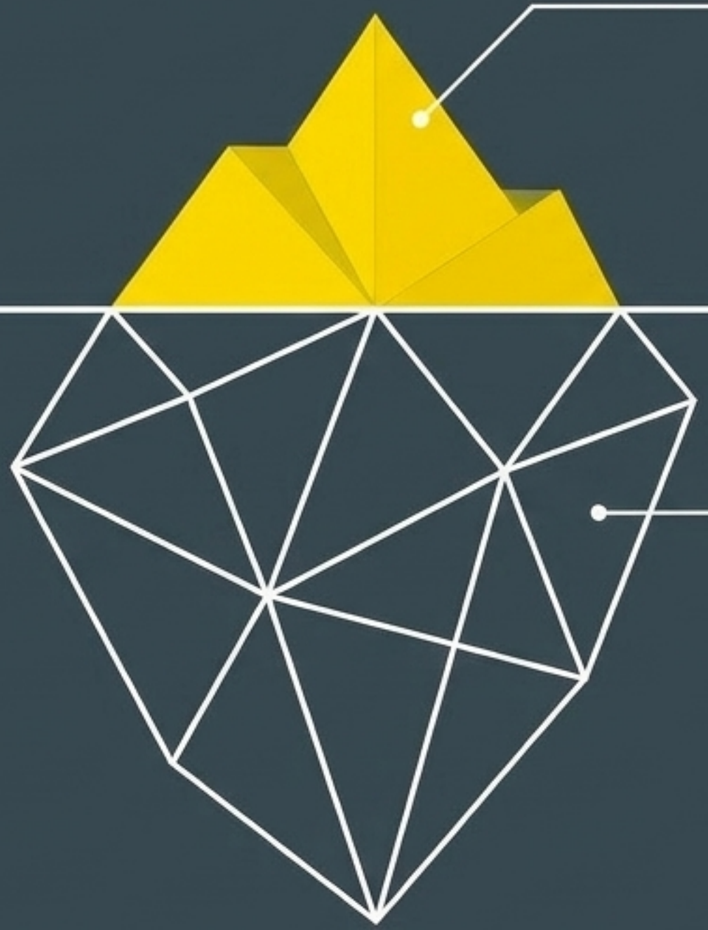
Gemini Notebook

ダブルスにおける２つのマインドセットの違い。

自分が活躍したい人	パートナーを輝かせる人
「自分が打てる球はすべて触る」	「パートナーの得意なプレーを引き出す」
「自分が決められるか」を基準にする	「パートナーが決めやすい球をつくれるか」を基準にする
自分が目立たないと、勝っても満足できない	パートナーが活躍して 二人が機能すれば満足する

Gemini Notebook

ダブルスにおける高度な技術は、目に見えない部分に存在する。



目立つ部分

- スマッシュを決める
- 自分で決める技術
- 目立つプレー

見えない技術

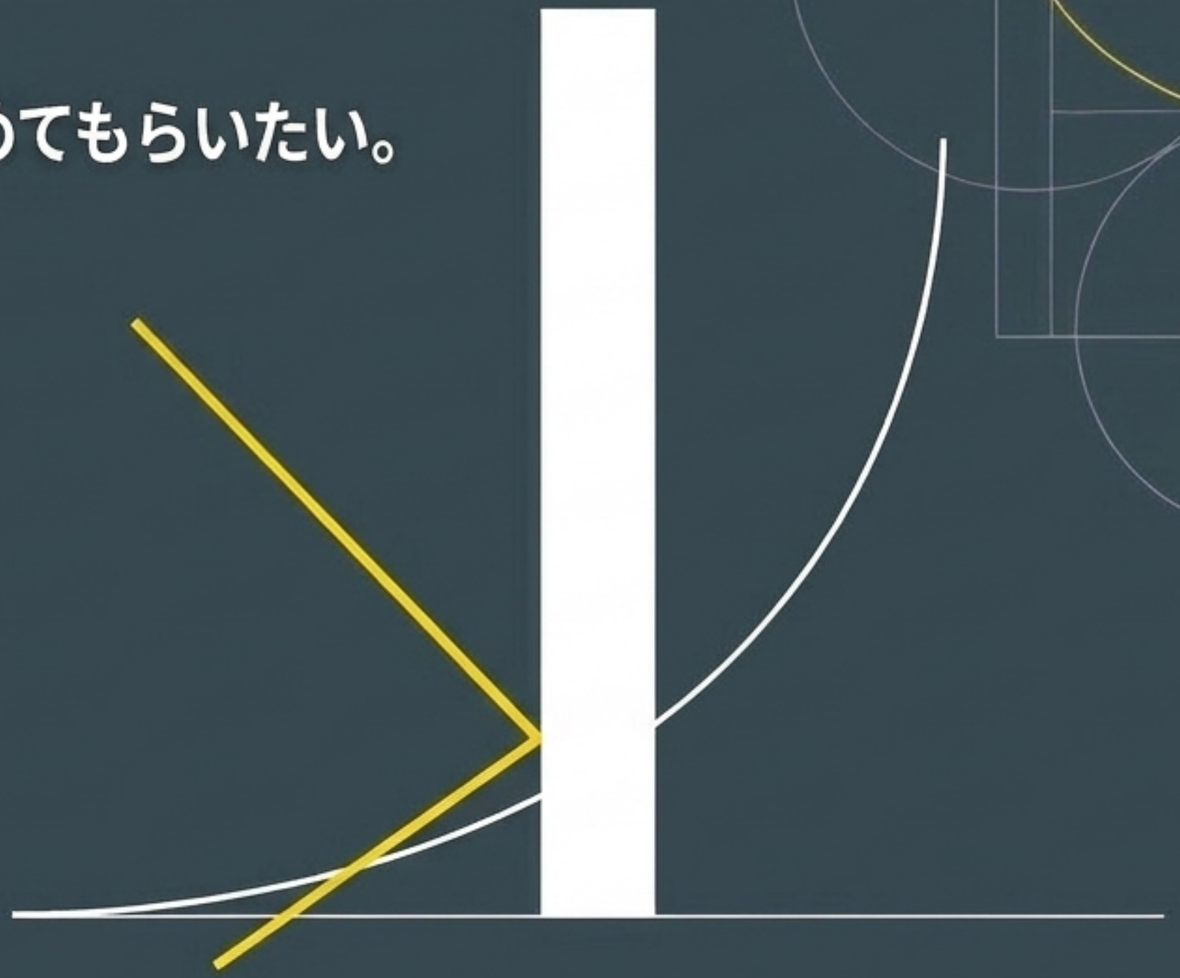
- パートナーが決めやすい球をつくる
- パートナーの攻撃力を引き出す
- 自分が触らない方がよい場面では、あえて触らない判断力

Gemini Notebook

「自分が上手くなりたい」という純粋な向上心が、かえって上達を妨げている。

自分が決めたい。自分の実力を周囲に認めてもらいたい。
その欲求自体は珍しいものではない。

しかし、その欲求に支配されると、
パートナーが活躍することさえ、
自分の満足を奪う出来事になってしまう。



Gemini Notebook

「何を自分の成長と考えているのか」
という価値観を更新する。

成長の証拠＝「自分が何本決めたか」
（技術を身につける幅が狭まる）



成長の証拠＝「自分の存在によって、
パートナーがどれだけ力を発揮できたか」
（この視点を持てるかどうかが、プレーヤーとしての大きな分岐点となる）

Gemini Notebook

パートナーを活躍させることは、
自分自身の技術を発揮する絶好の機会である。

自分が打たないことで、二人の得点力を高める。
そこには、自分で決める技術とは異なる、
高度な判断力が必要だ。

**パートナーを活躍させる能力が向上したなら、
それこそ自分が上手くなった証拠ではないか。**

Gemini Notebook

目立たない技術が生み出した輝きに、誇りを持つ。

「自分が活躍しなければ、自分は上手くなっていない」
そんな思い込みを捨ててほしい。

パートナーが輝いたとき、
その輝きを生み出した自分の技術にも、誇りを持ってほしい。

パートナーを活躍させられる自分になることを、心から楽しむ。
それこそが、ダブルスという競技の奥深さであり、上達する喜びだ。

Gemini Notebook

ダブルスが上手い人とは、自分が目立つ人ではない。



自分が活躍したいという欲を手放したとき、
初めて見えてくるダブルスの技術がある。

パートナーを輝かせながら、二人で勝てる人だ。

Gemini Notebook